令和7年度　　学校評価表　　吉舎中学校区　　三次市立　（　吉　舎　小　）　学校

小中一貫教育目標	「自ら学び　考え　自立した行動ができる『きさ』の子ども」の育成	経営理念	○ミッション ・子供の命を守る（生存権の保障） ・子供に生きる力をつける（学習権の保障） ・子供も教職員も幸せになる（Well　Being） ○ビジョン～愛で笑顔あふれる学校～ ・知・徳・体の「基礎・基本」を身に付け、社会でたくましく生きる力を育てる学校 ・地域を愛し、誇りに思い、地域と協働し、より良い社会を築く志を育てる学校
学校教育目標	自ら学び　考え　自立した行動ができる『きさ』の子どもを育成する学校		

A　適切である
B　概ね適切である
C　あまり適切でない
D　全く適切でない
（N　判定できない）

評価計画						自己評価						学校関係者評価	
項目	中期経営目標	短期経営目標	具体的な取組・方法	評価指標	目標値	達成値 中間	達成値 最終	達成度	評価	分析（成果と課題）	改善方策	評価	記述
確かな学力	確かな学力の定着と主体的・対話的で深い学びの実現	基礎的・基本的な知識・技能の定着	・児童のつまずきを分析するとともに、各教科の特性を生かした指導を工夫改善し、国語科では、１０の観点読み、算数科では考え方モンスターを活用することで、児童の「わかる・できる」を保障する。 ・ドリルタイムを活用し、基礎的な技能の習得や復習を図る。 ・児童一人一人の実態に応じた家庭学習の課題を工夫する。 ・ICTを活用し、個別最適な学びを保障する。	・国語科・算数科の単元テストで平均点が目標値（85点）を上回った学年の割合を85％以上にする。 ・三次市学力到達度検査（基礎・活用）で全国平均を上回った教科数の割合を85％以上にする。	単元85％ 市85％	50%		59%	D	各学年の単元末テストの結果の平均点をみると、算数85点以上の学年が二学年（１年、６年）、国語85点以上の学年が四学年（1年、2年、４年、６年）であった。学校全体でみると特に算数に課題が大きいことが分かる。算数に絞って、85点以下の学年の単元末テストの結果を詳しくみると、平均点は約80点の学年がほとんどで、78点以下の学年は無い状況で、特に思考力・判断力・表現力等の項目で課題をもつ児童が多い。全校児童でみると、思考力・判断力・表現力等の項目において70点以下の児童は25名（対象児童82名：特支児童を除く）ほどいる状況で、その割合は全体の約30％を占めている。	特に算数の指導において、児童が数や図形の意味・仕組みを理解できるように、具体物の操作や図に表す活動など、数学的活動を重視した授業を行う。また、児童が自分の考えを的確に説明できるようにするために、説明例や言い回しを活用しながら、必要な言葉や数値を選び直し、図や式とともに順序立てて表現できるようにする。また、昨年度から取り組んでいる「考え方モンスター」を活用した授業づくりを引き続き行い、「考える愉しさ」を実感する授業づくりを基本に据えて取組をすすめる。	C B C A	・全国平均を下回る結果以降、「考え方モンスター」や児童が教え合うなど工夫をしておられる。これからに期待。 ・思考と達成感を味わえる学びの場にしてほしい。 ・数学等平均点が目標に達していな学年も、目標値と大きな開きはなく、Dの評価にはならないと考える。 ・中学生になっても小学校の学習内容が基本となるので、発展的内容も大切だが、基礎基本の徹底を図っていかれると良いと思います。（特に算数）
		「表現力」の育成	・ペア、グループ、一斉学習といろいろな形態で考えを伝える場を設定する。 ・研究授業を中心に話し合い活動の充実のさせ方について職員で協議する。 ・考えを書く、学習の振り返りを視点をもって考える時間を確保する。	・児童アンケート「授業では、友達と話し合うなどして、自分の考えが深まったと感じる。（理由が思いついた、考えに自信が持てた、説明の仕方が分かったなど）」の項目について肯定的な評価を９３％以上にする。	93%	91%		98%	B	児童のアンケート結果をみると、肯定的な回答をした児童が76人、否定的な回答をした児童が８人ほどいる。昨年度１回目に行った同様のアンケートの結果は肯定的な回答をした児童が75人、否定的な回答をした児童が10人であり、今年度の結果は昨年度と同様の結果を得ることができていることが分かった。 今年度のアンケートに対して否定的な回答をした８名の児童の結果を詳しくみると、全６問あった道徳に関するアンケートのほとんどに「どちらかといえばそう思わない」「そう思わない」と否定的な回答をしている状況が分かった。	吉き舎りプログラムを学期ごとに作成して、道徳の指導価値項目の重点を学年ごとに定め、道徳の時間を中心に据え、各教科・学校行事とつながりを事前に整理する取組を引き続きおこなう。また、吉き舎りプログラムの進行状況を示した掲示物を作成し、学習の経過を児童と共に確認できるようにする。各教科の学習や学校行事を行った際には、この掲示物を基に各学期の重点内容や学級全体であゆみをすすめていく方向性を確認したり、児童ひとりひとりの頑張りが認められるような機会をもつことができるようにする。	B B B A	・グループを作り、「振り返り」の確保が大切と思います。 ・どのように話し合いをさせるかが大切だと思います。話し合いの目的も明確にしておく必要があります。取組を継続してください。
豊かな心	主体的に表現しようとする児童生徒の育成	自己有用感の向上	・縦割り班での掃除やレク、行事などで他学年と関わる機会を充実させ、自己有用感をもつことができる取組を児童会・委員会と協力して行う。	・道徳アンケートで、自己有用感に肯定的な評価をする児童を90％以上にする。	90%	81%		90%	B	１年生お迎え遠足では、レクレーションを通して高学年が下級生の手本となり、自己有用感を高めることができた。掃除活動では、異学年で関わり、相互にいい影響を及ぼすことができた。児童は責任をもって係や当番、委員会の仕事をしているが、人のためになっているという意識が低い。	自分を厳しく評価している児童には、肯定的な言葉をかけ、自信と自己肯定感を高めさせていきたい。運動会やクリーン活動などの学校行事を通して、自己有用感を高めていく。	B B B A	・自分の行動が生活や周囲の人たちの役に立っているという自己有用感が育っている。 ・委員会は人のためもあるが、自分のためでもある。役割分担で自分の務めをきちんとはたしていることを評価されたい。

豊かな心	主体的に表現しようとする児童生徒の育成	規範意識の醸成	・あいさつ、返事、学びの習慣（時間を守る）を身につけた児童を育成する。委員会活動を中心に全校に意識化を呼びかけ、児童が主体的に取り組む活動を推進する。 ・児童・教職員アンケートを実施分析し、取組を考える。	・児童アンケートで、規範意識を肯定的な評価をする児童を90％以上にする。	90%	93%		103%	A	月目標に掲げ、全校児童で意識を高めて取り組み、一定の成果が見られた。児童の自己評価と周りからの他者評価では、少々の差は感じられる。地域見守り隊からも「挨拶の声が小さい。」「挨拶を返してくれない。」という声も上がっている。	あいさつ、返事、学びの習慣の大切さを改めて認識させる。３つの具体的な場面を浮かべながら、自分の課題を見直させる。	A A A A	・こちらから声をかければ、元気に挨拶ができる児童が多い。はずかしさがあるかな。自主的に挨拶できるともっと良いと思う。 ・言葉とともに笑顔や礼などの表現力が育っていると思います。 ・挨拶の声は強制するものではないが、相手を認める、そしてコミュニケーションの第一歩ですので、お互いに気持ちの良い挨拶を心がけたいものです。
健やかな体	健康の保持増進と体力の向上	生活習慣の確立	・メディアコントロールウィークを設定し、自己評価する。 ・給食の時間や各教科等の時間を活用して食に関する指導を行い、食に関する興味・関心を高める。食に関する情報を定期的に発信し、全教職員で食育を推進していく。	・メディアに触れている時間の目標を個人で設定し、達成できた児童を80％以上にする。 ・食品の名前や栄養素の働きを理解し、食べ物を好き嫌いせずに食べることができる児童を80％以上にする。	メディア80% 食80%	78% 81%		97% 101%	B A	１週間の元気を育てる生活づくりの取組の中で、メディアコントロールの目標を設定して取り組んだ。メディア利用の自己目標達成率は78％であり、今後も継続して取り組む必要がある。 食品の名前が分かる児童が昨年度よりも3％上昇したものの、好き嫌いせずに食べようとする児童や残さず食べようとする児童の割合が減少した。残さず食べようと意識するためには、個人の意識を高めることや環境面の支援をしていく必要があると考える。	2学期もメディアコントロールの取組を継続して行う。合わせて、メディアの上手な利用の仕方や心身との関わりについての指導を計画的に行う。 担任からの指導では給食指導におけるルールを再確認させ、時間をみて行動ができるように環境支援を行っていく。栄養教諭からは、栄養バランスと良い食事と体との関係について指導を実施し、食べることの意味を伝えいく。	B B A A	・自宅でのことであるが、友達で集まっても、スマホやタブレットばかり見ている。アンケートでは８０％であるが、実際はそれ以下である印象を受ける。 ・食を生産できる人や地域環境の視点も重視していただきたい。 ・メディアコントロールは、心掛けが大事ですが、タブレット等をどう利用していくかも合わせて指導が中学校でも必要と思っています。
		体力の向上	・新体力テストの県平均、全国平均や昨年度の自己記録をもとに、自己目標を設定させる。 ・体育科を中心にサーキットなどの体づくり運動に取り組む。 ・朝会の時間を使って持久走やなわとび練習などをする。	・新体力テストで、各学年8項目中４項目が県平均または全国平均を超えるようにする。 ・2学期以降新体力テストで県平均または全国平均を下回った２項目を全校で実施する。	4項目					県平均、全国平均の結果が分かり次第分析する。			・スポーツ、遊びの充足感の中で、体力の低下の要因を探る。
信頼される学校	地域・保護者から信頼され期待される学校づくり	地域とともにある学校づくり	・CSの取組を進め、保育所、小学校、中学校、高等学校、地域の各種団体との連携を図る。 ・学校だよりやHP等を活用した情報発信を積極的に行う。	・保、小、中、高や地域との交流活動を通して、成長したと肯定的評価をする児童を80％以上にする。 ・保護者アンケートで情報発信に係る肯定的評価を90％以上にする。	交流80% 情報90%	89% 93%		111% 103%	A	保、小、中、高や地域との交流活動を通して、子どもたちは成長を実感しているようだ。ただ、学校運営協議会には、まだまだ改善の余地があり、より効果の高い取り組みを模索していかなければならない。情報発信に関わる肯定的評価は９３％となり、紙面や電子媒体で効果的に発信できている。	コミュニティースクールをより効果的に機能させていくための方策を協議・検討していく。また、学校運営推進協議会の在り方を模索していき、児童生徒、そして地域にとってより有効なものにしていく。また、適宜適切に情報発信ができるように、継続して取組を進めていく。	A B A A	・地域の方との交流を通じて、児童の成長を感じる。 ・地域の中でも自分たちが生かされている実感が持てる取組が進められていってほしい。 ・情報発信は、よく取り組まれていると思います。CSは中学校も活用をどうしていけばよいのか模索中です。
		働き方改革の推進	・半期ごとにアンケート等で実態を把握し、学校衛生委員会や企画委員会を中心に取組を推進する。	・児童に向き合う時間があると実感する教職員の割合を80％以上にする。	80%	92%		115%	A	職員アンケートでは、「子供と向き合う時間が確保されている。」「業務改善が進んでいる」という項目で肯定的に評価をした職員は92％であったが、「上司や同僚と良好な関係を築けている」「職場の職員は、立場や役割に応じて主体的に業務を遂行している」をいう項目では肯定的な評価は100％であった。業務改善が進んでいることや対話の取組が進んでいることがうかがえる。	「子どもと向き合う時間が確保されている」という項目で、よくあてはまると回答した職員は50％であったことから、向き合う時間の定義を定着させ、更なる時間の捻出を考案する。また、業務改善を通して、職員の意識改革を促し、自らの工夫でも時間を創出する方法を自発的に考えさせる。	A C A A	・サポート制度などを活用し、住民の力をもっとオープンに広げてほしい。 ・先生方はよく職務に取り組まれていると思います。

【自己評価】　A：達成度１００以上（目標達成）　、B：８０≦達成度＜１００　（ほぼ達成）　、C：６０≦達成度＜８０（もう少し）　、D：達成度６０以下（できていない）

達成度：達成値÷目標値×100